



ケンウッド DRV-EM4700仕様

本体(フロントカメラ)		リアカメラ	
画素数	207万画素	画素数	207万画素
センサー	1/2.8型フルカラー-CMOS	センサー	1/2.8型フルカラー-CMOS
画角	170°(対角)	画角	132°(対角)
F値	F1.9	F値	F2.0
モニターサイズ	12型	価格	オープン(編集部調べ実売5万円前後)

純正ミラーに装着した「ミラレコ」。12型とモニターも大きく後方視界も見やすい。

文：会田肇 / 写真：井上雅行 text: Hajime Aida photos: Masayuki Inoue

最新デジタルルームミラー型のドライブレコーダーはより広い後方視界も得られるスグレモノ



音声コマンドを搭載し、緊急録画や写真撮影、前後カメラの表示切り替えの3操作に対応。



フロントカメラはスライド式で大型のミラーにも対応可能。また上下左右の微調整もできる。



装着は純正ミラーに付属のバンドで留める。右側カメラ仕様だがあらゆる車種に対応可能だ。

ドライブレコーダーで幅広いラインナップを揃えるケンウッドが、新たなカテゴリの『ミラレコ』を発売した。その注目点は大きくふたつあり、ひとつは最近の新車で装備されることが増えて来た電子ミラーとしての機能を備え、もうひとつはケンウッド独自のアイデアでドライブレコーダー機能を高めていることだ。

デジタルルームミラーとしてのメリットは、車内に多くの人が乗車、あるいはリアに荷物を積載しても、後方視界をフルに確保できることだ。『ミラレコ』ではそのカメラをスモークガラス越しとなる車内側に取り付ける。ケンウッドはスモークガラスの影響を最小限に抑える処理を行っており、跳ね上げなどによる汚れ対

策ともなるこの方法を採用した。

ドライブレコーダーとしては、多くのミラー型が左側にカメラを配置する中で、『ミラレコ』では右側に配置し、しかもそれをスライド式とした。その理由は右側にする事でドライバー目線で映像を捉えられるようにし、スライド式とすることで装着するクルマ側のADASユニットを映り込みにくくするためだ。

操作系はタッチ式を基本とし、その上で音声でのコントロールも可能にした。たとえば画面の切り替えは画面をタッチしてもいいし、見たいカメラの映像として“フロントカメラ”“バックカメラ”と発話してもいい。これなら運転中でも操作できるし、安全上でもプラスとなる。

イメージセンサーも暗所撮影に強い「STARVIS」を前後カメラに採用し、解像度もフルハイビジョン映像に対応。さらにWDR機能によってトンネル内などに入り出した時の輝度を最適化できる。カメラのレンズにもこだわり、フロントは前方を可能な限り広く撮れる画角とし、バックカメラは後続車の様子が捉えやすいようにあえて画角を狭くした。これらはまさにドラレコの経験が豊富なケンウッドならではの対応と言える。

最近はデジタルルームミラーを搭載するクルマも増えてきた。海外製品も多い中で、『ミラレコ』は日本のユーザーの立場でケンウッドが造り込んだ製品。安心安全と先進性にこだわるユーザーにとって待望の一台となるだろう。



フロントの画角は170°とかなりの広視野角をもつ。記録画質はフルHDでクルマのナンバーや風景も鮮明だ。



バックカメラの映像(上)と従来のミラーの映り。ヘッドレストやCピラーなどの死角もなくなり、視界が広い。



指で画面を上下スワイプすると映像の表示エリアを調整できる。左右スワイプで画面輝度の調整が可能。